

新潟大学工学部同窓会 悠久会へのお誘い



新しく入会される皆様へ



令和 2 年 4 月

〒950-2181 新潟市西区五十嵐 2 の町8050

新潟大学工学部・悠久会館

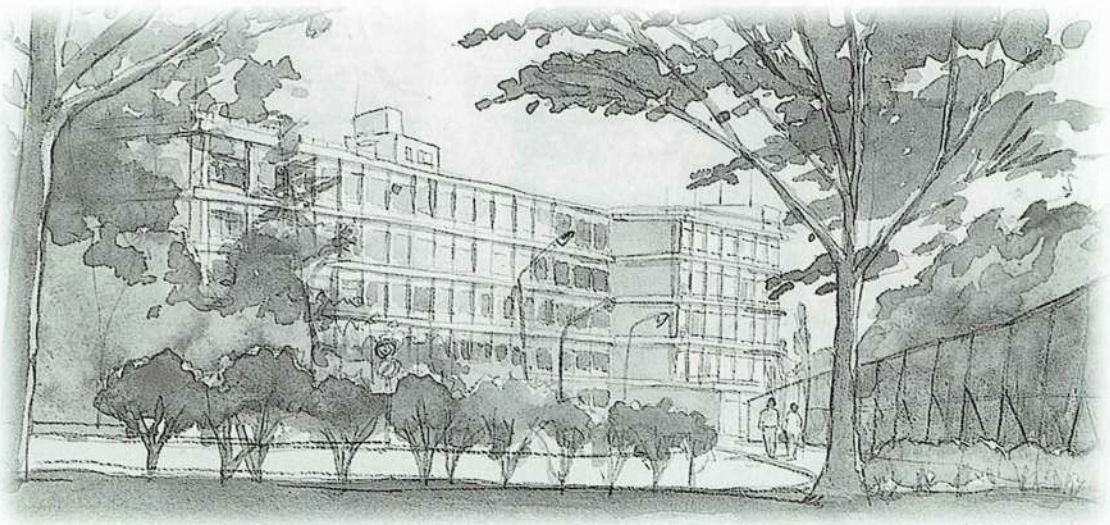
Tel/Fax 025-262-6717

E-mail : jimlib@eng.niigata-u.ac.jp

Homepage : <http://www.yukyukai.gr.jp>

目 次

歓迎のことば	1
新潟大学工学部同窓会「悠久会」とは	2
悠久会の活動	3
新潟大学工学部同窓会会則	4
各県別会員数	6
最近の悠久会会員の進路	7
「悠久会時報」より	14
新潟大学工学部の歩み	17



表紙説明：「WRS（World Robot Summit）2018に出場しました。」

歓迎のことば



新潟大学工学部同窓会（悠久会）

理事長 寺尾 正義（電52）

新入生の皆さん合格おめでとうございます。また、この歴史ある工学部に入学されました事に心からお祝い申し上げます。

ご存じのように日本国の社会・経済環境は少子高齢化という、大変難しい局面でのかじ取りを強いられております。この事は、つまり好むと好まざるとに係わらずグローバル化の波に洗われることを意味していますし、必然的に一国を超えた国際的な対応力やビジネス感覚が求められている事をも意味しております。

皆さんが学生時代に身につけなければならない事は、基礎的な学問的部分は当然として、変わり行く時代への対応力と国際感覚です。そのあたりの情報収集には、新聞・マスコミに拘わらず、家族や諸先輩並びに同窓会など幅広いネットワークを通じて、自分自身の将来像をじっくり考える時間を持って下さい。

新潟大学工学部には毎年、就職希望者数を大幅に超える求人数があり、ほぼ全員が希望する就職先を得ています。この事は皆さんの努力が最大の理由である事はもちろんですが、多くの卒業生やOBの諸先輩が築いてくれた遺産の部分も少なくありません。

皆さんは入学と同時に入会金を納めますと、自動的に工学部同窓会（悠久会）の会員（学部生のうちは準会員）となりますが、この事は約29,000人の同窓生のネットワークに仲間入りすることを意味していますし、同時に全国の同窓生・諸先輩が築いた遺産を受け継ぐことにもなります。

また、本同窓会の活動は極めて活発で、独自の奨学金制度を確立しています。また、地元県内企業の就職相談やUターン就職支援などの相談窓口機能も備えることを検討しており、会員のために役立つ色々なことを行っております。

新入生の皆さんには信頼できる悠久会として、生涯に渡り有益に活用する事が出来ますので、どうか安心して入会し、少しでも豊かな学生生活を送れるように活用して下さい。

将来、新入生の皆さんが、新潟大学工学部に入学しそして悠久会に入会し本当に良かった、と思える事を確信しております。

新潟大学工学部同窓会を代表して、同窓会への入会を心より歓迎致します。

新潟大学工学部同窓会「悠久会」とは

- ・新潟大学工学部の在學生や卒業生、工学部の先生が会員です。会員数は約29,000名。
- ・同窓会本部事務所は工学部の中にあり、「悠久会」とも呼びます。
- ・同窓会の名誉会長は工学部長です。
- ・新潟大学工学部の卒業生である先生方が同窓会活動を手伝っています。

新潟大学工学部卒業生の連携と親睦を深め、それとともに新潟大学工学部の発展と社会・産業の発達に貢献することを目的としています。

全国各地に28支部あり、先輩がそれらの支部長となっています。

多くの会社に新潟大学工学部同窓会の組織があります。

各支部や各会社で工学部同窓会の懇親会などがあります。

同窓会で役立つことは

- ・就職に役立っています。同窓会の先輩が活躍している一流企業や有名企業、地元企業からの求人が多くあり、新潟大学工学部の卒業生を求めています。
- ・就職してから、先輩後輩のネットワークで有益なことが多くあります。
- ・大学時代の友達や同級生だけでなく、工学（専門）分野の広いネットワークが活用できます。
- ・専門分野のつながりが他の企業の方とも幅広くできるので便利です。
- ・同窓会は、異業種・異分野間の人的交流の場です。新しいアイデアのヒントが得られるはずです。
- ・将来、皆さんが各分野で指導的立場に就いたときに、必ず役立ちます。

悠久会の活動

1. 新潟大学工学部への支援

母校工学部のために、さまざまな支援を行い工学部の発展を助けています。

例えば、工学部援助金の寄附、工学部創立記念事業への支援、新潟大学工学部の発展に寄与している（公財）新潟工学振興会への支援などを行っています。

2. 卒業祝賀会

新潟支部の同窓会の方々と毎年「卒業祝賀会」を手伝っています。

毎年、3月下旬頃に「ANAクラウンプラザホテル」などで、卒業生・父兄・教職員の出席のもと、学長も出席され、盛大な卒業祝賀会を開いています。

3. 奨学金の貸与

同窓会からの奨学金で、学部生および新潟大学工学部出身の修士課程や博士課程学生の学費を助けています。

4. 学生支援事業

工学部生（工学系大学院生）による独自の活動や取組み、工学部を社会にアピールする学生らしい活動等を対象に、助成金を支給しています

5. 会員動向の把握

約29,000人の会員の連絡先などを同窓会で管理しています。

例えば、同級会の案内を出したい、就職活動や入社時に先輩に連絡したい、といった際に活用できます。

6. 全国総会

新潟大学工学部の卒業生が一堂に会して、一年間の事業計画を決める大切な総会です。

全国総会は毎年7月頃に開催。（開催地は全国各地を巡回します。）

7. ホームページ

悠久会（同窓会）独自のホームページ（www.yukyukai.gr.jp）を開設し、卒業生の連携と親睦を強化し、母校の発展に寄与しています。

新潟大学工学部同窓会会則

第一章 総 則

- 第一条 本会は新潟大学工学部同窓会（悠久会）と称する
- 第二条 本会の事務所は新潟大学工学部内に置く
- 第三条 本会は会員相互の連携と親睦を強化し、併せて母校の発展並びに学術文化の向上と産業の発達に寄与することを目的とする
- 第四条 本会は第三条の目的を達成するため次の事業を行なう
1. 会員相互の連絡と共助に関すること
 2. 母校との連絡に関すること
 3. 産業関係の調査研究並びに奨励に関すること
 4. 工業知識の普及に関すること
 5. 会員名簿の整備を行うこと
 6. その他必要と認める事業
- 第五条 本会の目的を達成するため多数の会員が存在する地区に支部を置く

第二章 会 員

- 第六条 本会の会員は正会員、准会員、特別会員及び名誉会員の四種とする
1. 正会員は長岡高等工業学校、長岡工業専門学校、新潟大学工学部の卒業生及び新潟大学大学院工学研究科の修了生並びに新潟大学大学院自然科学研究科を修了した者で理事会の承認を受けた者
 2. 准会員は新潟大学工学部の在學生
 3. 特別会員は母校の現教職員及び旧教職員であって理事会が推薦した者
 4. 名誉会員は学識名望があり本会並びに産業の発展に功績があった者で総会において推薦した者

第三章 役 員

- 第七条 本会に次の役員をおく
1. 名誉会長1名、理事長1名、常任理事若干名、理事若干名、監事2名、各支部長
 2. 本会に副理事長をおくことができる
 3. 本会に相談役及び顧問をおくことができる
- 第八条 役員は次の如く選任する
1. 名誉会長は新潟大学工学部長を推薦する
 2. 理事長は理事の互選により選出し、総会の承認を得る
 3. 常任理事は理事中より理事長が推薦し、理事会の承認を得る。また、理事長は正会員の中から若干名を常任理事に推薦することができる
 4. 理事は各支部の正会員（以下支部会員という）より選出された者、新潟大学工学部在職中の正会員（以

- 下本部会員という）より選出された者、及び各支部長とする。ただし、その選出人数は施行細則による
5. 監事は理事会において選出する
 6. 支部長は各支部において選出する
 7. 副理事長は理事中より理事長が推薦し、理事会の承認を得る
 8. 相談役及び顧問は会員中から理事会が推薦する
- 第九条 役員は次の如く定める
1. 理事長は本会を代表し、会務を総括する
 2. 理事は理事会を組織し重要事項を審議する
 3. 常任理事は常任理事会を組織し通常の会務を処理し、理事会に提案する諸議案を作成する
 4. 監事は会計及び会務の執行を監査し必要に応じて理事会に意見を述べる
 5. 支部長は支部を代表し、支部の会務を総括する
 6. 副理事長は理事長を補佐し、理事長に事故あるときはその職務を代行する
 7. 名誉会長、相談役及び顧問は会務に関して理事会の要請により意見を述べる
- 第十条 理事長、副理事長、常任理事、理事及び監事の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない

第四章 会 議

- 第十一条 会議は総会、理事会、常任理事会及び支部長会とする
- 第十二条 総会は毎年1回理事長が招集する。ただし、事情によって理事会に因った上臨時総会を開催することができる
- 総会で決議する事項は次の如く定める
1. 会則変更
 2. 財産管理及び処分
 3. その他重要事項
- 第十三条 定期理事会は理事長の招集により毎年催し、臨時理事会は必要に応じ随時開催する
- 理事会で決議する事項を次の如く定める
1. 総会に提出する原案の作成
 2. 総会の決議による会務の処理
 3. 経常費予算の認定
 4. 会則施行細則の制定改廃
 5. その他総会の権限外の事項
- 第十三条之二 常任理事会は理事長の招集により、随時開催する
- 第十三条之三 支部長会は各支部長をもって組織し理事長の招集により毎年1回以上開催し、本会の会務を円滑に運営するための意見交換を行なう
- 第十四条 議事はすべて出席会員の過半数をもって決し、賛否同数のときは議長が決する

第五章 会 計

- 第十五条 本会の経費は正会員及び准会員の会費、入会金、寄付金その他の収入をもってこれにあてる
- 第十六条 会費は通常会費または終身会費とし、いずれかを納入する
- 第十七条 通常会費、終身会費及び入会金の金額並びに納入方法については施行細則に定める
- 第十八条 本会の会計年度は4月1日から翌年3月31日までとする

附 則

- 第十九条 会則を施行するに必要な細則は理事会の決議により別に定める
- 第二十条
1. 本会則は昭和43年6月23日より施行する
 2. 本会則は昭和55年5月4日より施行する
 3. 本会則は昭和56年7月4日より施行する
 4. 本会則は平成元年6月3日より施行する
 5. 本会則は平成5年6月5日より施行する
 6. 本会則は平成10年7月4日より施行する
 7. 本会則は平成15年8月3日より施行する
 8. 本会則は平成18年7月8日より施行する
 9. 本会則は平成22年7月11日より施行する

新潟大学工学部同窓会会則施行細則

役 員

- 第一条 支部会員より選出される理事と本部会員より選出される理事の選出人数は次の規定による
1. 支部会員より選出する理事は、支部会員200名までは1名とし、200名を越える支部においては、200名ごとまたはその端数毎に1名を追加することができる
 2. 本部会員より選出する理事については会務遂行に必要な人数とする
- 第二条 監事に欠員が生じたときは理事会において後任者を選出する
- 第三条 監事は理事を兼任することができない

会 費

- 第十条
1. 通常会費は年額 金2,000円とする
 2. 終身会費は40,000円とし原則として一括納入するものとする
 3. 通常会費から終身会費に切り換えても納入済みの通常会費は返還しない
 4. 終身会費を増額改定した場合には、その増額分を追加納入するものとする
 5. 入会金は金15,000円とし本会入会時に納入するものとする
 6. 准会員が退学や除籍により脱会した場合で、終身会費を払い込んである場合には、終身会費から通常会費分を差し引いた金額を返却することができる

会 計

- 第四条 本会の資産は本部常任理事が保管し、理事長が管理する
- 第五条 本会計に特別会計を設けることができる

会員の個人情報の管理

- 第十一条 本会は、会則第一章第四条に定めた事業遂行の目的で、会員動向の把握に努める。なお、会員の個人情報は新潟大学工学部同窓会会員個人情報管理規定に基づき、本部において適正かつ公正に管理する

支 部

- 第六条 支部はその所在地によって新潟大学工学部同窓会何々支部と称し、一定の場所に事務所を置く
- 第七条 新たに支部を設置する場合はその区域、支部規則案及び支部会員名簿を理事会に提出して承認を受けなければならない
- 第八条 支部の運営に要する経費は当分の間その支部の負担とする。ただし、本部はその経常費の予算内において理事会の決議を経て、支部に補助金または返還金を交付することができる
- 第九条 支部は毎年1回以上その活動状況や支部会員異動状況を理事長に報告するものとする

附 則

- 第十二条 会則及び会則施行細則の適用できない事項が生じたときは、理事会において個々に解決するものとする
- 第十三条
1. 本会則施行細則は平成10年7月4日より施行する
 2. 本施行細則は平成14年7月6日より施行する
 3. 本施行細則は平成17年4月1日より施行する

各県別会員数

新潟大学工学部同窓会

支部配置図

(28)支部

⑫新潟	4,100名
⑬長岡	981名
⑭県央	727名
⑮柏崎	280名
⑯上越	613名
⑰魚沼	327名

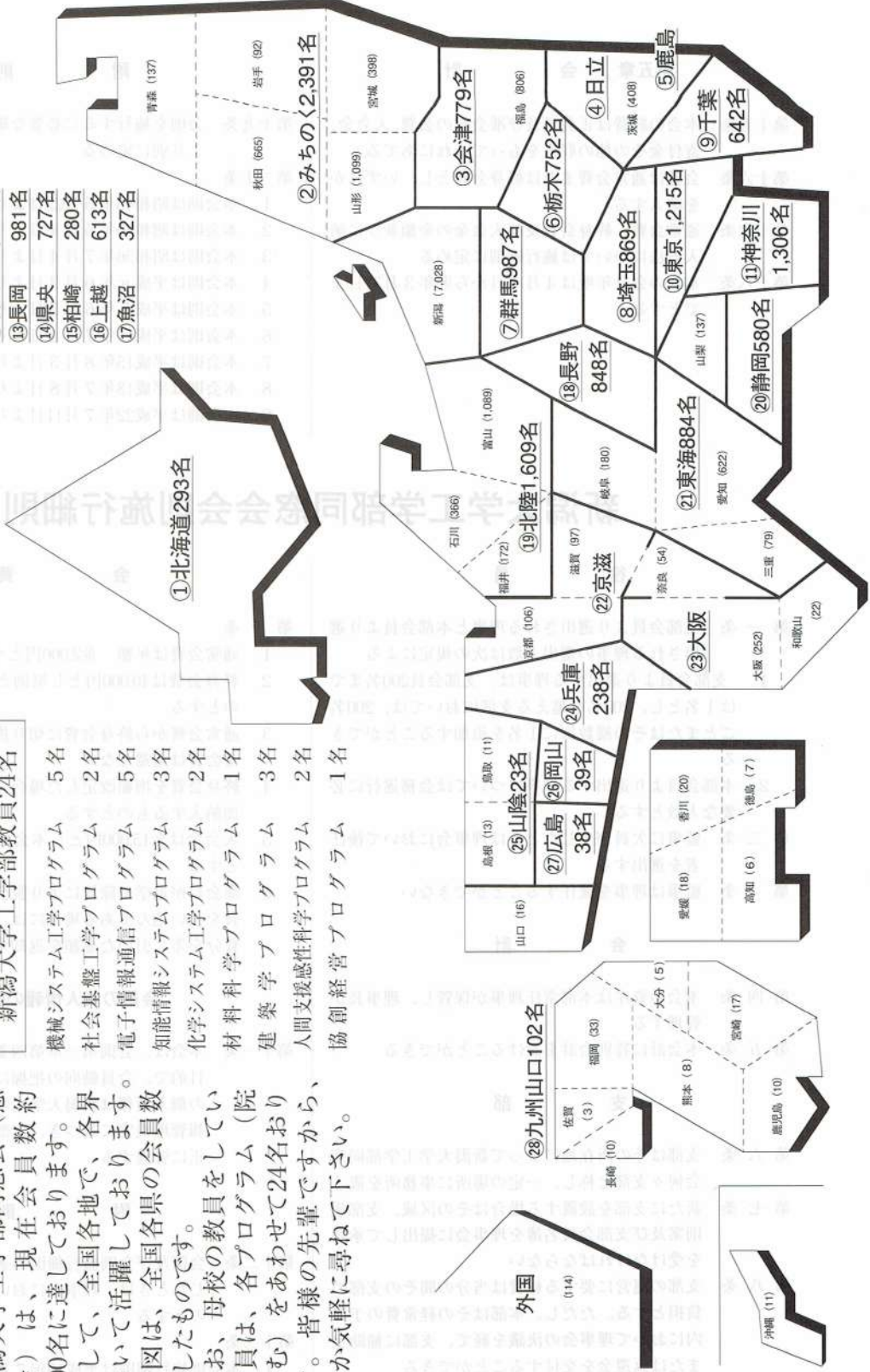
新潟大学工学部教員24名

機械システム工学プログラム	5名
社会基盤工学プログラム	2名
電子情報通信プログラム	5名
知能情報システムプログラム	3名
化学システム工学プログラム	2名
材料学プログラム	1名
建築学プログラム	3名
人間支援感性科学プログラム	2名
協創経営プログラム	1名

新潟大学工学部同窓会（悠久会）は、現在会員数約29,000名に達しております。

そして、全国各地で、各界において活躍しております。この図は、全国各県の会員数を示したものです。

なお、母校の教員をされている会員は、各プログラム（院を含む）を合わせて24名おります。皆様の先輩ですから、どうか気軽に尋ねてください。



最近の悠久会会員（新潟大学工学部卒業生・大学院修了生）の進路

学部卒業生の約6割は大学院へ進学しています。例えば、平成31年3月の卒業生511名中の301名が大学院（285名が新潟大学大学院博士前期課程）へ進学しています。

ここでは、悠久会で取りまとめた新潟大学大学院修士課程を修了した悠久会会員の平成27～31年の就職先を示します。今後の参考にして下さい。

博士前期（修士）課程を修了した悠久会会員（新潟大学工学部卒業生）の就職先（平成27～31年）

企業名	人数	企業名	人数	企業名	人数
ア		アルプス電気(株)	2	エコ・パワー(株)	1
アイエックス・ナレッジ(株)	1	アロン化成(株)	1	株エスエスシステム	1
アイジー工業(株)	1	株アンドクリエイト	1	S M C (株)	1
アイシン精機(株)	1	アンリツ(株)	5	S C S K (株)	2
アイシン・エイ・ダブリュ(株)	2	アンリツインフィビス(株)	3	株SBS情報システム	1
アイシン軽金属(株)	1	イ		エソクソン・ジャパン(株)	1
会津オリンパス(株)	5	株飯島建築事務所	1	NECエンベデッドプロダクツ(株)	3
株合田工務店	1	イソル(株)	1	NECソリューションイノベータ(株)	9
株アイチコーポレーション	1	イカリ消毒(株)	1	NECディスプレイソリューションズ(株)	1
株ITスクエア	1	池上通信機(株)	1	NECネッツエスアイ(株)	2
青木環境事業(株)	1	株イシカワ	1	NSKニードルベアリング(株)	2
秋田県	3	石川県	2	株NS・コンピュータサービス	4
株アサカ理研	1	石原産業(株)	1	株NSGホールディングス	1
旭化成ホームズ(株)	1	いすゞ自動車(株)	3	株NSソリューションズ東京	1
旭硝子(株)	3	井関農機(株)	1	N O K (株)	13
朝日航洋(株)	3	出光興産(株)	1	エヌシーイー(株)	1
旭ファイバーグラス(株)	1	出光ライオンコンポジット(株)	1	NTTコミュニケーションズ(株)	3
アゼント・テクノロジー・インターナショナル(株)	1	伊藤忠エネクス(株)	1	株NTTデータアイ	5
アズビル(株)	1	伊藤忠テクノソリューションズ(株)	4	株NTTデータビジネスシステムズ	1
アスモ(株)	1	いわき市	1	株NTTデータ北海道	1
アチーブメント(株)	1	インクリメントP(株)	2	N T T 東日本(株)	5
株A D E K A	1	株インターリスク総研	1	株NTTファシリティーズ	2
株アドヴィックス	1	株インテック	1	株エフコム	1
アドソル日進	1	ウ		エプソンアヴァシス(株)	1
株アドテックエンジニアリング	2	株ウイング	2	MMCリョウテック(株)	1
アドバンエンジ(株)	1	上田日本無線(株)	1	遠藤工業(株)	1
株アトラスホールディングス	2	ウルシステムズ(株)	1	株遠藤製作所	1
アビームコンサルティング(株)	1	エ		オ	
アビックヤマダ(株)	1	エア・ウォーター(株)	1	株オーエム製作所	1
株有沢製作所	4	E I Z O (株)	2	株岡村製作所	1
アルケア(株)	1	株エイチ・アイ・ディ	1	沖電気工業(株)	3
株アルファシステムズ	1	株エー・アンド・デイ	2	沖縄富士通システムエンジニアリング	1
アルプスアルバイン(株)	7	エーザイ(株)	1	株奥村組	1
株アルプス技研	1	A G C (株)	1	株オプティム	1

企業名	人数
オブテックスエフエー(株)	1
オムロン(株)	2
オムロンオートモーティブエレクトロニクス(株)	1
小山市役所	1
(株)織本構造設計	1
オリンパス(株)	3
オルガノ(株)	1
カ	
カーリットホールディングス(株)	1
花王(株)	2
カシオ計算機(株)	1
鹿島建設(株)	7
(株)カブコン	1
亀田製菓(株)	1
カルソニックカンセイ(株)	1
(株)河合楽器製作所	1
川崎重工業(株)	5
川田工業(株)	1
カワダロボティクス(株)	1
(株)環境技術研究所	1
関西ペイント(株)	1
関東化学(株)	1
キ	
紀伊産業(株)	1
北芝電機(株)	1
(株)キタック	1
北日本放送(株)	1
北野建設(株)	1
キタムラ機械	1
(株)北村製作所	2
(株)キッツ	1
(株)木村鑄造所	1
(株)キャタラー	1
キヤノン(株)	13
キヤノンITソリューションズ(株)	1
キヤノンアネルパ(株)	1
キヤノンイメージングシステムズ(株)	30
キヤノン電子(株)	1
キヤノントッキ(株)	1
キヤノンファインテック(株)	1
京セラ(株)	1
共和工業(株)	1

企業名	人数
(株)共和電業	3
協和ファーマケミカル(株)	1
ク	
(株)C u o n	1
(株)クボタ	1
クミアイ化学(株)	1
グラクソ・スミスクライン(株)	1
倉敷機械(株)	2
(株)クラレ	7
クラレノリタケデンタル(株)	1
栗田工業(株)	2
(株)クレハ	2
グローバルウェア・ジャパン(株)	2
グロープライド(株)	1
群栄化学工業(株)	1
群馬県婦恋村役場	1
ケ	
経済産業省	1
K D D I (株)	4
K Y B (株)	4
(株)ケーヒン	1
コ	
(株)小糸製作所	1
高圧ガス保安協会	2
弘栄設備工業(株)	1
興研(株)	2
(独法)高齢・障害・求職者雇用支援機構	1
小大建築設計事務所	1
コーデンシ(株)	1
郡山商工会議所	1
(株)コガネイ	1
国土交通省北陸地方整備局	3
(株)コシナ	1
(株)コスモスモア	1
コニカミノルタ(株)	4
コベルコ建機(株)	1
(株)コロナ	7
コンチネンタル・オートモーティブ(株)	1
コンピュータ・テクノロジー(株)	1
サ	
サームス(株)	4
(株)埼玉村田製作所	1

企業名	人数
(株)サイバーエージェント	1
酒田市	1
サトウ食品工業(株)	1
澤藤電機(株)	1
サンアロー(株)	1
サンケン電気(株)	1
(株)三條機械製作所	2
三條市	1
(株)サンソウシステムズ	1
サンデン(株)	5
サンデンホールディングス(株)	1
山洋電気(株)	1
シ	
(株)シアシンス	1
(株)GSユアサ	1
CKサンエツ(株)	1
(株)ジーシー	3
(株)JR東日本情報システム	1
J R 東海(株)	2
J R 西日本(株)	1
J R 東日本(株)	42
(株)JR東日本建築設計事務所	1
(株)JR東日本ビルディング	3
JR東日本ビルテック(株)	2
JR東日本メカトロニクス(株)	1
J R 北海道(株)	1
J S R (株)	1
J X 金属(株)	1
JFEスチール(株)	6
JFEテクノリサーチ(株)	1
JFEプラントエンジ(株)	1
JFEメカニカル(株)	1
(株)J-ケミカル	1
(株)J C U	2
(株)ジェイテクト	1
JBSテクノロジ(株)	1
(株)ジェイマックソフト	2
(株)ジオ技術研究所	1
(株)シグマ	1
(株)システムサービス	1
(株)システムスクエア	3
(株)システムディ	1

企業名	人数
(共)自然科学研究機構国立天文台	1
シチズン電子(株)	1
(株)シノテスト	1
清水建設(株)	1
シャーブ(株)	2
新潟電子工業(株)	2
(株)ジャパンディスプレイ	3
(株)ジャムコ	1
十全化学(株)	2
昭和設計(株)	1
昭和電工(株)	1
昭和電線ホールディングス(株)	1
白河オリンパス(株)	2
信越化学工業(株)	15
(国研)新エネルギー・産業技術総合開発機構	1
新興プラントック(株)	4
新東工業(株)	1
新日鐵住金(株)	2
新日本電工(株)	1
新日本テクノカーボン(株)	1
新日本無線(株)	1
新菱冷熱工業(株)	1
ス	
(株) 函 研	1
スズキ(株)	8
(株)鈴木建築設計事務所	2
(株)スタッフサービスエンジニアリング	1
スタンレー電気(株)	2
(株)SUBARU	5
住友大阪セメント(株)	1
住友化学(株)	5
住友ゴム工業(株)	1
住友重機械工業(株)	4
住友精化(株)	1
住友電装(株)	1
住友ベークライト(株)	1
スリーエムジャパンプロダクツ(株)	2
セ	
セイコーインスツル(株)	1
セイコーエプソン(株)	18
セーレン(株)	1
セキサマー(株)	1

企業名	人数
積水ハウス(株)	1
石油資源開発(株)	2
セコム(株)	1
(社)セメント協会	1
仙台市	1
ソ	
創建築事務所	1
(株)総合車両製作所	1
双日システムズ(株)	1
(株)ソシオネクスト	1
ソニー(株)	2
ソニーエナジー・デバイス(株)	2
ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング(株)	1
ソフトバンク(株)	3
ソリマチ(株)	1
(株)ソリマチ技研	1
タ	
第一化成(株)	1
第一三共ケミカルファーマ(株)	1
(株) 大 広	1
大成建設(株)	6
大東ガス(株)	1
大同特殊鋼(株)	1
ダイニチ工業(株)	6
大日精化工業(株)	7
大日本印刷(株)	9
大日本塗料(株)	1
ダイハツ工業(株)	1
太平洋セメント(株)	4
ダイヤテックス(株)	1
(株)ダイヤメット	5
(株)太陽工機	2
太陽日酸(株)	1
太陽誘電(株)	4
大和ハウス工業(株)	2
ダウケミカル日本	1
高 崎 市	2
高砂熱学工業(株)	1
(株)高田建築事務所	2
竹井機器工業(株)	2
(株)竹中工務店	1
田中貴金属工業(株)	1

企業名	人数
(株)田中衡機工業所	1
WDBエウレカ(株)	1
タボット(株)	1
(株)タンガロイ	3
チ	
(株)CHINO	1
中部電力(株)	4
(株) 長 大	1
ツ	
ツインバード工業(株)	4
(株)ツガミ	6
月島機械(株)	1
テ	
D I C (株)	1
(株)T & K T O K A	2
DHLサプライチェーン(株)	1
DNPファインケミカル(株)	1
T D K ラ ム ダ (株)	8
T D K (株)	4
T P R (株)	1
テイ・エスティック(株)	1
帝 人 (株)	6
(株)ThyssenKrupp Otto	1
デグセリアルズ(株)	1
(株)テクノフレックス	1
(株)デジタル・ウント・メア	1
テックプロジェクトサービス(株)	1
鉄 建 建 設 (株)	2
(独法)鉄道建設・運輸施設整備支援機構	2
鉄道情報システム(株)	1
(株)テラスカイ	1
テ ル モ (株)	5
デ ン カ (株)	5
電気化学工業(株)	2
電気興業(株)	3
電源開発(株)	2
(株)デンソー	2
デンソーテクノ(株)	1
(株)デンソーテン	1
ト	
東亜道路工業(株)	2
東 急 建 設 (株)	1

企業名	人数
東京エレクトロニクス株式会社	2
東京エレクトロニクス株式会社	3
東京応化工業株式会社	1
東京計器株式会社	1
東京大学生産技術研究所	1
東京電力株式会社	8
東京都	2
東京都中央区役所	1
東京貿易エンジニアリング株式会社	1
東光株式会社	2
(株)東光高岳	1
東芝ソリューション株式会社	1
東芝デジタルメディアエンジニアリング株式会社	2
東芝プラントシステム株式会社	2
東芝ホームテクノ株式会社	4
東芝メディカルシステムズ株式会社	1
東芝メモリ株式会社	1
東ソー株式会社	1
東電設計株式会社	1
(株)東邦アーステック	1
東邦アセチレン株式会社	1
東邦銀行	1
東北インテリジェント通信株式会社	1
東北エプソン株式会社	3
東北電力株式会社	33
東北特殊鋼株式会社	1
東北バイオニア株式会社	1
東洋インキSCホールディングス株式会社	4
東洋計器株式会社	1
(株)東陽テクニカ	1
東洋紡株式会社	3
(株)東陽理化学研究所	2
東レ株式会社	1
DOWAホールディングス株式会社	5
トータルテクニカルソリューションズ株式会社	1
TOTO株式会社	2
(株)都市環境研究所	2
(独法)都市再生機構	2
戸田建設株式会社	1
栃木県	1
凸版印刷株式会社	2
(国研)土木研究所	1

企業名	人数
tomito architecture	1
富山県	2
富山小林製薬株式会社	1
(株)富山富士通	1
豊田合成株式会社	1
(株)豊田自動織機	3
トヨタ自動車株式会社	14
(株)豊田自動織機	3
ナ	
長岡市	4
中日本高速道路株式会社	1
中日本ハイウェイエンジニアリング東京株式会社	1
長野県	1
(株)中村バルブ製作所	1
(株)南雲製作所	1
那須市役所	1
(株)ナックイメージテクノロジー	1
ナブテスコ株式会社	1
ナミックス株式会社	2
南陽市役所	1
ニ	
新潟県	9
(一財)新潟県環境衛生中央研究所	1
新潟県警	1
(一財)新潟県建設技術センター	1
新潟原動機株式会社	5
新潟市	7
新潟市水道局	1
新潟トランス株式会社	2
(株)ニイガタマシントテクノ	2
新潟メタリコン工業株式会社	1
ニイガタ・ローディング・システムズ株式会社	1
日軽新潟株式会社	1
(株)日建設計シビル	1
日産化学株式会社	1
日産化学工業株式会社	5
日産自動車株式会社	9
日産車体株式会社	1
日信工業株式会社	1
日精エー・エス・ビー機械株式会社	1
日曹エンジニアリング株式会社	2
日東電工株式会社	1

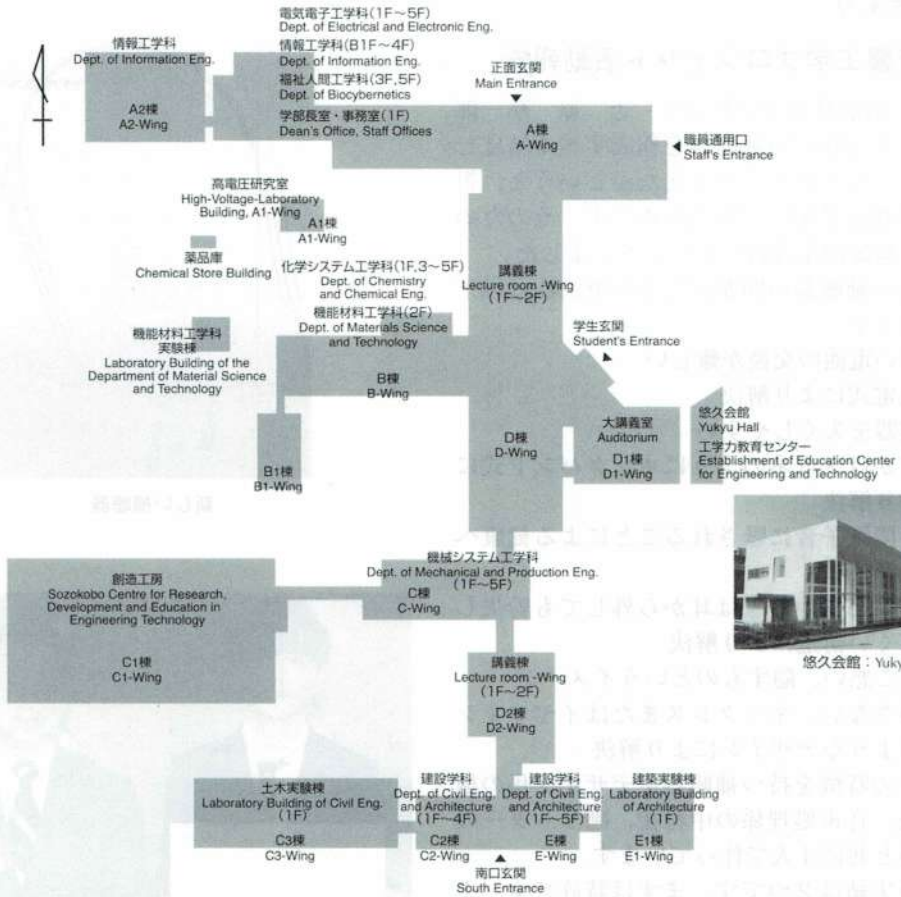
企業名	人数
(株)NIPPON	1
(一社)日本海事検定協会	1
日本ケミコン株式会社	1
日本精機株式会社	25
日本精工株式会社	3
日本総合研究所	1
日本曹達株式会社	1
日本バイントホールディングス株式会社	1
日本郵政株式会社	1
日本アルゴリズム株式会社	1
日本ERI株式会社	1
日本カーバイド工業株式会社	2
日本海ガス株式会社	1
日本化薬株式会社	2
地方共同法人日本下水道事業団	1
(国研)日本原子力研究開発機構	3
日本建築検査協会株式会社	1
日本原燃株式会社	2
日本光電工業株式会社	6
日本国土開発株式会社	1
日本コムシス株式会社	1
日本CMK株式会社	2
日本システム株式会社	1
日本製紙株式会社	1
(株)日本設計	1
日本通運株式会社	1
日本テキサス・インスツルメンツ株式会社	2
日本電気株式会社	7
日本電業工作株式会社	1
日本電産株式会社	3
日本電産コパル株式会社	1
日本電設工業株式会社	1
日本発条株式会社	1
(株)日本ファインケム	2
日本プロセス株式会社	1
日本ミシュランタイヤ株式会社	1
日本無線株式会社	2
ネ	
(株)ネクスコ・エンジニアリング新潟	4
(株)ネクスコ東日本エンジニアリング	3
(株)NENGO	1

企業名	人数
ノ	
能美防災(株)	5
(株)ノーザンクロス	1
ノキアソリューションズ&ネットワークス(株)	1
ハ	
(株)パーソンリンク	1
バイオニア(株)	1
(株)パスコ	1
(株)長谷工コーポレーション	2
h a k k a i (株)	1
パナソニック(株)	3
パナソニックIT S(株)	3
(株)パナソニックシステムネットワークス開発研究所	3
パナソニック・タワー・ジャズ・セミコンダクター(株)	1
パナソニックヘルスケア(株)	1
浜松ホトニクス(株)	1
ハリマ化成グループ(株)	1
ヒ	
(株)ピーアールシー	1
(株)BSN アイネット	3
(株)P F U	2
日置電気(株)	2
東日本高速道路(株)	8
東日本トランスポート(株)	1
(株)日立製作所	2
日立アプライアンス(株)	2
日立アロカメディカル(株)	1
日立オートモティブシステムズ(株)	7
日立化成(株)	9
日立金属(株)	1
日立建機(株)	4
(株)日立建設設計	1
日立工機(株)	1
(株)日立国際電気	4
(株)日立産機システム	3
(株)日立システムズ	2
(株)日立製作所	9
(株)日立ソリューションズ	1
(株)日立ソリューションズ東日本	2
(株)日立テクノロジーアンドサービス	1
(株)日立ニコトランスミッション	1
(株)日立ハイテクノロジー	1

企業名	人数
(株)日立パワーソリューションズ	4
(株)日立ビルシステム	4
日立マクセル(株)	1
(株)日立メディコ	1
日野自動車(株)	3
ヒロセ電機(株)	1
フ	
ファナック(株)	7
(株)福井村田製作所	1
(一財)ふくしま市町村支援機構	1
(株)福田組	1
富士化学工業(株)	1
富士機械製造(株)	1
(株)フジクラ	1
(株)不二越	7
富士重工業(株)	4
富士製薬工業(株)	1
藤田エンジニアリング(株)	1
富士通(株)	5
(株)富士通ゼネラル	1
富士電機(株)	2
(株)富士通新潟システムズ	4
富士電気(株)	12
富士フィルムファインケミカルズ(株)	2
富士フィルムメディカルITソリューションズ(株)	1
富士フィルム和光純薬(株)	1
富士古河E & C(株)	1
藤森工業(株)	1
フドー(株)	1
フューチャーアーキテクト(株)	1
(株)ブリヂストン	2
古河電気工業(株)	1
古河電池(株)	1
古河マグネットワイヤ(株)	1
(株)フレックス	1
プログレス・テクノロジー(株)	2
(株)フロロコート	1
へ	
(株)ベシック	1
ホ	
防衛省	1
防衛装備庁	1

企業名	人数
(有)穂海農耕	1
北越紀州製紙(株)	3
北越工業(株)	13
北陸ガス(株)	9
(株)北陸銀行	1
北陸コンピュータ・サービス(株)	1
北陸地方整備局	1
北陸電力(株)	19
北海道ガス(株)	1
北海道電力(株)	7
北興化学工業(株)	1
ボッシュ(株)	1
保土谷化学工業(株)	1
ボラスグループボラス(株)	1
(株)ボラテクノ	1
本田技研工業(株)	7
マ	
マイクロウェブファクトリー(株)	1
(株)マイナビ	1
前田建設工業(株)	1
マックス(株)	5
(株)M A R U W A	1
ミ	
水澤化学工業(株)	3
ミズノ(株)	1
美津濃(株)	1
ミズホ(株)	2
みずほ情報総研(株)	2
(株)三井E&Sエンジニアリング	1
三井化学(株)	2
三井化学東セロ(株)	1
三井金属鉱業(株)	4
光井純アンドアソシエーツ建築設計事務所	1
三井住友建設(株)	3
三井造船(株)	2
(株)ミツバ	3
三菱ガス化学(株)	7
三菱ケミカル(株)	2
三菱樹脂(株)	1
三菱総合研究所	1
三菱電機(株)	18
三菱電機インフォメーションシステムズ(株)	1

工学部建物配置図



悠久会館：Yukyu Hall

「悠久会時報」より

新潟大学工学部同窓会（悠久会）では、各支部での同窓生の活動などに加えて、在学生の活動について、独自の機関誌「悠久会時報」の年2回（春と秋）発行により、お知らせしています。

以下に、悠久会時報第131号（H29. 4. 30発行）の中から、工学部だよりの記事をご紹介します。「悠久会」をご理解頂く上で、ご参考になれば幸いです。

131号より

音響工学プロジェクト活動報告

機能材料工学科2年 吉原 順一郎

私たちは新しい補聴器を作成すべく結成しました。なぜ作ろうと考えたかという、祖母が補聴器で困っていたためです。そのため従来の補聴器を改良しようと考えました。

従来の補聴器の問題点とその解決法は以下の通りです。

- 小さい電池の交換が難しい
→ 充電式により解決
- 補聴器を失くしやすい
→ 首かけメガネのようにネックバンド式により解決
- 長時間電子音に曝されることによる健康への悪影響
→ 使用しないときは耳から外しても紛失しにくい構造により解決
- かっこ悪い、隠すものというイメージ
→ 隠さない、ネックレスまたはイヤフォンのようなデザインにより解決

以上の特徴を持つ補聴器をデザイン系の横田晶花、音声処理係の中村岳、副リーダーの長瀬巧と共に4人で作っています。

主な実績は2つです。まずは特許です。1件特許出願済み（特願2016-027323）、別の1件は2017年3月21までに出願予定です。2つめは文部科学省・特許庁・日本弁理士会・（独）工業所有権情報研修館共催パテントコンテスト優秀賞受賞です。

最後になりますが、新潟大学工学部同窓会のあたたかいご援助のおかげで、昨年度と比べて金銭的負担が減りました。この場を借りて御礼申し上げます。今後ともご支援よろしくお願い申し上げます。また同窓生の皆様には補聴器の悩みなどを教えていただけると嬉しいです。



新しい補聴器



パテントコンテスト授賞式
毛利衛宇宙飛行士との写真

ご案内します — 悠久会館内部探索

悠久会館の入り口から入って会館内をぐるっと回りながら、中の様子をご紹介します。前頁までの写真と併せてご覧ください。まずは、正面入り口(写真1)から。最外側は自動ドアではないので、手動で開けてください。次は自動開閉です。入るとすぐに(写真2)のような空間が広がります。吹き抜け、かつ右側は全面ガラス張り。晴れ晴れとした気分になります。夏暖かく冬寒い？

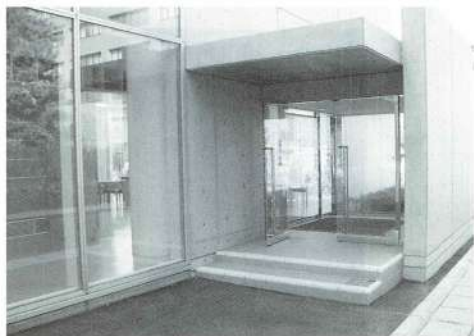


写真1. 正面入り口



写真2. ものづくりスペース

そこから左に目を転じると、何やらバーカウンター(写真3)の様なもの！楽しみです。そして、左隣が悠久会事務室です(写真4)。内部を詳しくご覧になりたい方は、是非ご訪問ください。



写真3. バーカウンター？



写真4. 悠久会事務室



写真5. 交流ホワイエ



写真6. エレベータ



写真7. 新潟TLO

悠久会の事務室前から東側を見るとこんな感じです(写真5)。左上に階段の一部が見えています。奥はエレベータ(写真6)で、左が交流ホワイエと呼ぶフリースペースです。

同窓会室とデッキ(中庭)を挟んで新潟TLOの部屋があります(写真7)。

下からアーカイブスを見上げるとこんな感じです(写真8)。でも、まだ中身が整備されていません。これからが楽しい部分です。



写真8. アーカイブス



写真9. 新潟学振興会



写真12. プロジェクトオフィス5



写真10. 骨董の門札

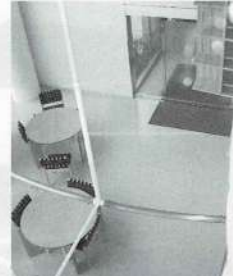


写真13. お〜い

さて、階段を上がって2階に行ってみましょう。左手に新潟学振興会の部屋(写真9)と工学力センター分室があり、部屋の前の一角に、かつて長岡校舎の門柱に掛けられていた「長岡高等工業学校」、「長岡工業専門学校」、「新潟大学工学部」の表札(写真10)が展示してあります。また、ご寄付いただいた中村健也(電気09)さんの遺品(悠久会時報第109号をご参照ください)がアーカイブスに展示してあります(写真11)。



写真11. 中村健也氏の遺品



写真14. カービング・アーカイブス

北側(同窓会室の真上)には「プロジェクトオフィス5」という部屋があります(写真12)。この部屋はまだ整備中ですが、同窓生の皆様にお使いいただけるスペースとなっています。この部屋の前から1階を見下ろすと(写真13)のような感じです。アーカイブスを近くで見たのが(写真14)です。何ともいえない素敵なカーブです。

駆け足の見学でしたが、皆さん是非ご自分の目で確かめて頂きたく、ご来館をお待ちしております。

会館の使用手続きについて

本会館は同窓会員・工学部教職員を対象に、科学技術に関する交流の場(ものづくりスペース、交流ホワイエ、プロジェクトオフィス5)を提供しております。ご使用に当っては、所定の使用願いを事前(一週間以上前)に大学側へ提出下さい。使用責任者が工学部教職員である場合、会館使用料は無料となりますが、その他の場合は工学部校舎と同様に多少の使用料が必要となります。なお、申請書類等につきましては同窓会事務室までお問い合わせ下さい。

新潟大学工学部の歩み

- 大正12年 (1923) 12月10日 長岡高等工業学校設置。校長 福田為造先生。
- 大正13年 (1924) 4月 電気工学科、機械工学科、応用化学科、113名入学。
- 昭和2年 (1927) 3月 第一回卒業生81名。
- 昭和14年 (1939) 6月 精密機械科、工作機械科増設され、入学式。
- 昭和16年～20年 戦争の為に繰り上げ卒業。
- 昭和19年 (1944) 3月28日 長岡工業専門学校に改名。
4月 新学科に変更。機械科（甲組、乙組、丙組）、化学工業科。
- 昭和21年 (1946) 6月 工作機械科は廃止され、精密機械科分科。
- 昭和24年 (1949) 5月31日 新潟大学発足。本校は包括され、新潟大学工学部となる。機械工学科、精密機械工学科、電気工学科、工業化学科が設置される。
7月 工学部入学式。
- 昭和25年 (1950) 4月 精密機械工学科を精密工学科と改称。
- 昭和26年 (1951) 3月 長岡工業専門学校廃校。27年の歴史を閉じる。
- 昭和31年 (1956) 4月 工学専攻科を設置。
- 昭和35年 (1960) 4月 化学工学科設置。工業化学科を応用化学科に改称。
- 昭和38年 (1963) 4月 電子工学科設置。
- 昭和41年 (1966) 4月 大学院工学研究科設置（修士課程）。工学専攻科廃止。
- 昭和42年 (1967) 4月 土木工学科設置。
- 昭和45年 (1970) 4月 雪氷工学研究室設置。
- 昭和47年 (1972) 4月 雪氷工学研究施設設置。
- 昭和52年 (1977) 4月 情報工学科設置。
- 昭和53年 (1978) 4月 雪氷工学研究施設、積雪地域災害研究センターへの移管。
- 昭和54年 (1979) 4・5月 長岡から新潟への第一次移転、電気・電子・情報・応化・化工・共通・管理部。
- 昭和55年 (1980) 4・5月 第二次移転、機械・精密・土木。
- 昭和56年 (1981) 4月 建築学科設置。
- 昭和61年 (1986) 4月 大学院工学研究科生産科学専攻設置（後期3年博士課程）。
- 昭和62年 (1987) 4月 大学院工学研究科生産科学専攻は、大学院自然科学研究科生産科学専攻が設置され、移行。
- 平成元年 (1989) 4月 工学部の9学科が改組され、5大学科（機械システム工学科、電気電子工学科、情報工学科、化学システム工学科、建設学科）となる。
- 平成3年 (1991) 4月 新潟大学地域共同研究センター設置。
- 平成5年 (1993) 4月 財団法人新潟工学振興会設立。
- 平成6年 (1994) 4月 機能材料工学科設置。
- 平成10年 (1998) 4月 福祉人間工学科設置。
- 平成13年 (2001) 2月 「新潟大学工学部80周年記念事業期成会」の認可。新潟大学科学技術交流悠久会館の建設等を目的に募金を開始（募金免税対象）。同窓会も悠久会館建設のための「80周年記念事業募金」を実施。
- 平成15年 (2003) 6月14日 新潟大学工学部創立80周年記念式典。
8月3日 80周年記念全国総会（長岡で）。
- 平成16年 (2004) 4月1日 国立大学の法人化により「国立大学法人新潟大学」となる。
- 平成16年 (2004) 4月1日 新潟大学全学同窓会連絡協議会の設立。
- 平成16年 (2004) 8月31日 新潟大学科学技術交流悠久会館の建設にむけての募金活動終了。
- 平成19年 (2007) 3月 新潟大学科学技術交流悠久会館完成
- 平成23年 (2011) 3月 東日本大震災のため、卒業式祝賀会および全国理事会の開催中止。
- 平成25年 (2013) 7月6日 新潟大学工学部創立90周年記念式典。90周年記念全国総会。
- 平成29年 (2017) 4月 工学部7学科（1学年定員480名）が工学科1学科（1学年定員530名）に再編、改組され、9主専攻プログラム（機械システム工学、社会基盤工学、電子情報通信、知能情報システム、化学システム工学、材料科学、建築学、人間支援感性科学、協創経営）となる。

歴代理事長

代	氏名	在任年月
初代理事長	黒田 清 (機2)	昭和16.7 (昭和16.7出征)
2代	下田 信次 (機2)	〃 16.7—昭和22.5
3代	上村 清五郎 (応3)	〃 22.5— 〃 38.10
4代	丸山 一雄 (応13)	〃 38.10— 〃 54.5
5代	栗原 道樹 (応16)	〃 54.5—平成 5.6
6代	永井 淳夫 (機23)	平成 5.6— 〃 10.7
7代	内田 力 (機43)	〃 10.7— 〃 24.7
8代	本合 邦彦 (機43)	〃 24.7—令和元年.6
9代	寺尾 正義 (電52)	令和元年.6— 現在

歴代校長及び学部長

代	氏名	在任年月	同窓会 (在任年月)
初代校長	福田 為造	大正12.12—昭和14.7	会長 (昭和2.3—昭和14.7)
2代	坪井 道三	昭和14.7— 〃 20.11	〃 (校長在任期間)
3代	山本 純如	〃 20.11— 〃 26.3	〃 (昭和20.11—昭和27.8)
初代学部長	山本 純如	〃 24.5— 〃 32.3	名誉会長 (昭和27.8—昭和32.3)
2代	山崎 貫三	〃 32.4— 〃 36.3	〃 (学部長在任期間)
3代	高沢 十三郎	〃 36.4— 〃 40.3	〃 (〃)
4代	柴田 雄三郎	〃 40.4— 〃 42.3	〃 (〃)
5代	遠藤 壽一	〃 42.4— 〃 44.2	〃 (〃)
6代	脇屋 正一	〃 44.3— 〃 46.2	〃 (〃)
7代	近藤 誠治	〃 46.3— 〃 48.2	〃 (〃)
8代	小林 宇五郎	〃 48.3— 〃 50.2	〃 (〃)
9代	遠藤 壽一	〃 50.3— 〃 54.2	〃 (〃)
10代	斉藤 昇	〃 54.3— 〃 56.3	〃 (〃)
11代	酒井 信之	〃 56.3— 〃 60.3	〃 (〃)
12代	下田 茂	〃 60.4— 〃 62.3	〃 (〃)
13代	阿部 武雄	〃 62.4—平成 3.3	〃 (〃)
14代	一宮 亮一	平成 3.4— 〃 7.3	〃 (〃)
15代	斉藤 義明	〃 7.4— 〃 11.3	〃 (〃)
16代	長谷川 富市	〃 11.4— 〃 15.3	〃 (〃)
17代	仙石 正和	〃 15.4— 〃 19.3	〃 (〃)
18代	大川 秀雄	〃 19.4— 〃 23.3	〃 (〃)
19代	坪川 紀夫	〃 23.4— 〃 25.3	〃 (〃)
20代	金子 双男	〃 25.4— 〃 26.1	〃 (〃)
21代	田邊 裕治	〃 26.2— 〃 29.3	〃 (〃)
22代	小椋 一夫	〃 29.4— 現在	〃 (〃)

(令和元年12月現在)



新潟スタジアム「ビッグスワン」